

[育林第一研究室]C. 大学演習林共同研究スギ品種地域連絡試験

宮島, 寛
九州大学農学部附属演習林 : 助教授

宮崎, 安貞
九州大学農学部附属演習林 : 助手

保坂, 保
九州大学農学部附属演習林 : 林業手

<https://doi.org/10.15017/1456294>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和42年度, pp. 47-48, 1968. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



C 大学演習林共同研究スギ品種地域連絡試験

宮 島 寛 ・ 宮 崎 安 貞 ・ 保 坂 保

標記の試験研究を九州大学付属演習林、その他において共同で行なうことになり、九州大学粕屋演習林では新建団地14林班ぬ小班0.23haを試験地として昭和43年3月に設定した。その目的と方法については次のとおりである。

1) 目 的

スギ品種比較を各試験と共同のもとに連絡試験とする目的は、品種適応性を明らかにして、奨励すべき優良品種を決定するための情報を得ようとするところにある。

2) 試 験 地

上述の目的を達成するための地域を環境要因とする連絡試験の見地から試験設計上の問題点は第1に代表的試験地として一様性をもつこと、第2に気候の代表性を満足し平均生長決定の正確度を高めるために適当な反復数と試験年数をもつこと、第3に品種反応差の理由をできるだけ追求しうることなどが可能でなければならないと考える。そこで試験地はこれらの点を考慮して、粕屋演習林以外では次の5つに設定した。

- (1) 鹿大高隈演習林(南九州)
- (2) 宮大田野演習林(中部九州、低地林)
- (3) 九大宮崎演習林(中部九州、山岳林)
- (4) 日田林工高校(北九州)
- (5) 愛媛大学演習林(四国)

3) 植 栽 樹 種 (実験材料)

これまでに各地で行なわれた試験成績および分析結果の例を参考にして検討したが、スギ品種は生長量の大小を基準とすれば、大(生長の早いもの)、中(生長の中庸のもの)、小(生長晩生のもの)の3グループに大別することができるのではないかと考える。そこで九州南部地域および同北部地域の代表的在来品種を各グループからそれぞれ2品種ずつ選んだ。

昭和42年度試験用スギ品種

グループ \ 地域	九 州 南 部	九 州 北 部
大	① クモトオシ	② ヤイチ
中	③ オビアカ	④ ヤブクグリ
小	⑤ メアサ	⑥ アヤスギ

粕屋演習林の試験地においても上表の全品種を植栽した。

4) 方 法 (実験計画)

方法は5ブロックの乱塊法によることとする。すなわち、1ブロックは $5 \times 6 = 30$ 本であり、1試験地の品種をこみにした本数は6品種、5反復なので $30 \times 6 \times 5 = 900$ 本となる。植栽方式は $1.6\text{ m} \times 1.6\text{ m}$ の正方形植えであるから ha 当り本数約3,900本である。植付け法はなるべく丁寧に行ない、1人1日100本(小運搬を含む)程度とする。粕屋演習林における試験地内でのプロット割付け(番号は品種を示す)は下表のとおりである。この試験地の面積は縦48m、横48m、約0.23ha 程度と予想される。

column (clone) Block	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)
I	2	3	1	4	6	5
II	6	1	5	2	3	4
III	5	2	3	1	4	6
IV	1	6	4	5	2	3
V	4	5	6	3	1	2

過 去 1 力 年 間 の 研 究 報 告

前田 武彦・宮島 寛：ヒノキ初生葉の展開節数における変動に関する調査

日林九支講/62 1. 1967. 10

宮島 寛・吉良今朝芳：省力的育林技術に関する研究(第5報)

荒上 和利・石津 一実

日林九支講/62 1. 1967. 10

宮島 寛：省力造林技術の改善を図れ

林業技術/63 10. 1968. 1

前田 武彦・宮島 寛：ヒノキの変異に関する研究(第1報)

第79回日林講 1968. 4